

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

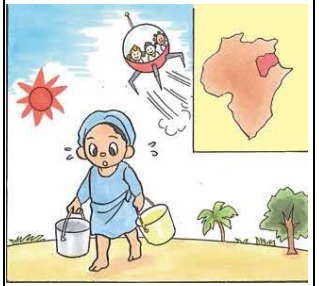
【実践者】

授業者氏名	水口 智之（担任教員団）	学校名	福岡県立 北九州 高等学校
教科（科目）・領域	総合的な探究の時間	対象学年（人数）	第2学年全クラス（199名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2020年10月～11月（総時間3時間 / 本時2時間目）		

【実施概要】

1. 単元名(活動名)：世界の水問題を通して気付く私たちの生活と解決すべき課題						
2. 実践する教科・領域： ※総合的な学習（総合的な探究の時間）		3. 学習領域				
			1	2	3	4
		A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
		B グローバル社会	相互依存	情報化		
		C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
		D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： 世界の水問題とそれを取り巻く各国と日本の状況を理解し、限りある資源(水)を有効活用していくための計画と行動を具体的に考える						
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	世界と日本が抱える現状の「水問題」を理解する				
	②思考力、判断力、表現力等	「水問題」に起因して世界に散在する諸課題について考え、自分の言葉で表現し他者に伝える				
	③学びに向かう力	「水問題」を取り巻く世界の諸課題に関する解決策や自分たちが取り組むべき行動を考える				
6. 単元設定の理由・単元の意義 （児童／生徒観、教材観、指導観）		【単元設定の理由あるいは単元の意義】 1.北九州市は過去に、経済発展に起因する水問題や環境問題、健康被害等を経験した事実を知るため 2.日本で生活すると無限に感じてしまう水資源だが、世界では解決すべき喫緊の課題として散在していることを知るため 3.日常生活に直結する水問題をヒトゴトではなくジブンゴトにするために、現状を知って解決策を模索する姿勢を育成するため 4.身近なことに興味関心を持ち、自ら問い立てを続け、自主的に解決策を模索していく意欲・態度の育成を目指すため 【生徒観】 当該学年は2年生であるが、1年次より「総合的な探究の時間」を実施しており、その到達目標を『様々な課題に対して自ら問いを立てて解決策を模索できる姿勢の育成と多様な他者との協働活動の推進』としてきた。 そのため、1年次は「インプット」に重点を置いてSDGsに関連する世界の諸課題を新聞記事や雑誌記事、その他視聴覚教材を活用して知識の獲得を目指してきた。 2年次では、そこで獲得した知識のさらなる深化と「アウトプット」に主眼を置いた内容要約や表現活動に注力して活動を展開している。このことから、大半の生徒はSDGsに関連する問題に対しての基礎知識はある程度備わっていると予想されるので、本時に展開する水問題の内容に関しても大体を理解し、必要な情報をインプットからアウトプットまでの作業に展開できるのではないかと予測する。				

【教材観 および 指導観】 まず、本時前の教材としてJICAが提供する映像教材「世界につながる教室」を視聴して水問題への関心喚起を行う。 その後は本時の学習として、JICAが提供する「世界の水問題」のリーフレットを活用した知識の深化を行う。 最後に、教員作成の独自教材となる「提出用整理ワークシート」を活用した内容把握、文章化、他者との共有、発表等を通して、自身が理解した内容に対するフィードバックを展開する。			
7. 単元計画（全 3 時間）			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	- 世界と日本の水問題の現状を知る - 水問題の原因を探る	- 視聴覚教材を視聴して必要な情報を得る - ワークシートを活用して情報を整理する	JICA 「世界につながる教室」 「生きる力」を育む国際理解教育実践資料集 「整理ワークシート①」
2 本時	- 世界の水問題を通して自分たちの日常生活を振り返り、改善できることを見つける - 改善できることを見つけたあとにどのように解決していくのか手立てを考える	「世界の水問題」を読み、重要箇所を選ぶ - 選んだ重要箇所をKJ法などにより分類する - 分類後の意見を発表し、記録に残す	JICA 「世界の水問題」 「整理ワークシート②」
3	- 種々の意見をグループ内で再考して解決課題を検討する - 課題解決のために自分たちの日常生活ですぐに、簡単に始められそうな活動をさがす	- 自分と他者の意見の違いについて考える - 自分たちの日常生活で出来る行動を模索する - 行動目標を大きく書き出して掲示する	「整理ワークシート③」

8. 本時の展開（概略）			
本時のねらい： 世界の水問題において解決しなければいけない課題が何であるかを考え、自分たちに出来ることは何であるのかを資料や情報から見つけ出して理解し、発表することで他者と共有できるようになること			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (7分)	《あいさつ・前時授業の振り返り》 「視聴覚教材として学習した『世界につながる教室』から学んだことや印象に残ったことを、理由を付けて簡潔に話してください」 - 水は大切で、みんなで分け合うべきモノだと思った - 他国では蛇口からすぐに水が出ないんだ - 雨水を飲む人々がいるんだ - 水くみは女性と子どもの仕事なんだ	- 他者の発表を傾聴できる雰囲気作り - 他者の意見を聞きながらメモ取りの促進 - 個人で考えてから他者と意見交換する活動	○整理ワークシート② 

展開

(31 分)

《本時の THINK 課題①》

「日常生活での水の使い道を「飲料用以外で」5 つ書いてください(うち 1 つは他者が思いつかないアイデア)」

- ・お風呂、シャワー、歯磨き、洗濯、炊事などがある
- ・食材の生産過程でもたくさん水を使っているんだ
- ・消火活動、オリンピックなどにも使われている

《本時の THINK 課題②》

「ある日突然断水したら…日常生活で困ることを 5 つ書いてください(うち 1 つは他者が思いつかないアイデア)」

- ・トイレやお風呂、食事の準備が困る
- ・断水すると学校生活でもいろいろ困る
- ・水を買いたくても売り切れていたら困る

《本時のインプットアウトプット活動①》

「JICA 教材『世界の水問題』を読んで、他者に伝えたい重要箇所を 10 個書いてください」

「その際、「水問題の現状」と「水問題の解決について出来ること」についてを分けて書いてください。

あとでグループ討議をしながら解決策を考えます。」

- ・人間が利用しやすい地表水は水全体のわずか 0.01%
- ・人間 1 人が 1 日に必要とする水は 20~50L
- ・世界では 10 人中 3 人が安全な水を利用できない
- ・水くみが仕事になって学校に通えない子どもの存在
- ・世界では 20 秒に 1 人が水関連の病で死亡
- ・世界で毎年 36 万人の 5 歳児が下痢で死亡
- ・日本は海外から 62%カロリーベースの食料を輸入
- ・温暖化原因となる二酸化炭素量を減らすことが急務

《本時のインプットアウトプット活動②》

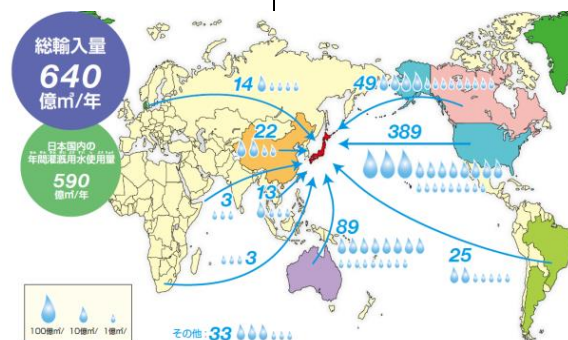
「自分が抜き出した重要箇所 10 個から他者に伝えたい『最重要箇所 5 個』を付箋に書いてください」

- ・人間が利用しやすい地表水は水全体のわずか 0.01%
- ・人間 1 人が 1 日に必要とする水は 20~50L
- ・世界では 10 人中 3 人が安全な水を利用できない
- ・世界で毎年 36 万人の 5 歳児が下痢で死亡

- 既習事項であるインプットされた知識を、自分の言葉でアウトプットする練習の促進

- 日常生活という身近な世界で考えて自分の言葉でアウトプットする練習の促進

- 資料読み込みに時間がかかる生徒の対応
- 文章から内容を想像したり、広げたりする援助を行う



- 情報を整理する基準作成について教員が指導助言をする援助の必要性

●文章から「必要な情報」を読み取り、整理して、他者に伝える

●「①で書いた 10 文(最重要箇所)をつけて『上位 5 文』を付箋に記入して待機してください」

5 人グループで 25 個の最重要箇所グループ内で最も優先度の高かった箇所は…

《このあとの作業①》

1. グループメンバーの各自が書いた最重要箇所 25 個の付箋を横並びに貼る

2. KJ 法で同じようなジャンルを分類して整理する(整理したらマジックで囲み、分類名を付す)

《このあとの作業②》

1. 分類された付箋をグループ内の話し合いで整理したり、優先順位を付けたりする

2. 25 個の付箋→10 個の付箋→5 個の付箋→2 個の付箋→最終的に 1 個の付箋

グループ内で最終的に残った優先度の高い情報を付箋に書いてある通りに記述

No. 3rd

2nd

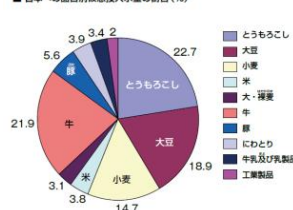
1st

○整理ワークシート②



○整理ワークシート②

■ 日本への品目別低炭素投入量の割合 (%)



○JICA 教材

『世界の水問題』

○整理ワークシート②

○付箋(1 人 5 枚+予備 1 枚)

○貼り付け用 A3 用紙

	《本時のインプットアウトプット活動③》 「付箋に書いた重要箇所 5 個を 5 人グループで KJ 法を利用して分類活動をしてください」 ・人間が利用しやすい地表水は水全体のわずか 0.01% ・世界では 10 人中 3 人が安全な水を利用できない ・世界で毎年 36 万人の 5 歳児が下痢で死亡 《本時のインプットアウトプット活動④》 「分類後に残った付箋の課題に優先順位をつける話し合いを行って、最重要箇所を 1 つ選んでください」 「選んだ最重要箇所 1 つの理由を話し合ったあとに発表者 1 名を選んでください」 ・人間が利用しやすい地表水は水全体のわずか 0.01% ・世界では 10 人中 3 人が安全な水を利用できない	●各グループでリーダーを選出し、円滑な話し合いを援助する ●各グループ 25 個の情報が書かれた付箋を A3 用紙に貼り付けて類似ジャンルの分類を行う ●前活動のリーダーを中心に各自の役割分担や発表内容が円滑に準備出来るよう援助する	○整理ワークシート② (教員作成の独自教材) ○付箋(1 人 5 枚+予備 1 枚) ○貼り付け用 A3 用紙 ○整理ワークシート② ○付箋(1 人 5 枚+予備 1 枚) ○貼り付け用 A3 用紙
まとめ (12 分)	《本時のインプットアウトプット活動⑤》 「発表生徒 1 名に自分のグループの発表をしてもらいます。発表以外の生徒は発表内容をワークシートに書き取ってください」 ・人間が利用しやすい地表水は水全体のわずか 0.01% →水は限りある資源だから、節水しなければいけない ・世界では 10 人中 3 人が安全な水を利用できない →安全な水を利用できない人々はどんなことに困ったり、苦しんだりしているんだろう 《本時の振り返りと次回授業への予告》 「本時授業の感想を各自で大福帳(連絡用紙)にまとめてください。同時に次回の授業予告を行います。」	●発表のタイミングを教員が管理するなど、書き取りの容易さに繋がる支援を行う ●感想を書きながら、本時の授業を振り返り、次回授業の予告を伝えて本時の内容を次回の授業に繋げる準備を行う	○整理ワークシート② ○整理ワークシート②



9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

1. 既習事項を思い出して、水問題に対して自ら主体的に関心喚起が出来たか
2. 水問題に関するリーフレットから必要な情報を見つけ、自分の言葉で他者に伝えることが出来たか
3. ワークシートを書き埋めることで、授業内容を逐次的に理解して活動できたか

※以上 3 点を、ワークシートや付箋等の記述を通して総合的に評価する

10. 学習方法および外部との連携

- ・ 本時の授業におけるゲストティーチャーの活用は予定していない
- ・ 本時の授業では、【①個人での活動→②グループでの活動→③グループの意見を全体で共有】という一連の活動を通して「個人から集団へ意見の伝播や拡がりを試みる」形式の授業展開とする
- ・ JICA 教材を通して SDGs を学ぶ活動を導入していることから、授業を受けた生徒の中には興味関心を持ってもっといろんなことを学びたいという意見が出てくることも予想されるので、活動前に司書教諭と相談して図書室に SDGs コーナー等の設置を依頼する配慮も検討している
- ・ 活動の集大成で作成する「水問題解決に向けた自分たちの行動目標」をまずはクラス内に掲示し、その後校内、学校外へと徐々に活動範囲を広げていく計画(Act Locally)を考えてみたい

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・ 本授業を 2 学年全体で取り組むことに関して、多く先生方に見学していただける「公開授業」の提案を管理職に依頼して、先生方への国際理解教育の足がかりになるよう心掛けていく
- ・ 授業前後の準備、授業後の生徒の心境変化等を、生徒が授業時に使用するワークシートや大福帳等を通して適宜確認したりアンケート調査を行ったりして、最終的には自身が所属する学会での実践報告という活動に繋げていきたい

【自己評価】

12. 苦労した点	取り上げた題材が「水問題」という大きなテーマだったので、事前学習→本時の学習→事後学習の 3 時間構成だったにもかかわらず、学習に対する目的と到達目標を生徒一人ひとりに十分に浸透させることが難しかった。また、この学習を通して最も注力したかった内容である「ヒトゴトからジブンゴトに変える」きっかけ作りが学習者に対してしっかりと定着できたのかどうかは懷疑的になってしまったと感じている。
13. 改善点	取り組んだテーマが大きかったこともあり、学習者に考えてもらいたい内容があいまいになってしまったと感じている。学習の到達目標を明確化することを踏まえたうえで、今回の反省点を改善するために 2 つの工夫をして取り組んでいきたいと考えている。 ① 学習者に学んでもらいたい内容を教示するのではなく、学習者の実態に即した指導案作成 ② 学習内容を細分化して、学習者に考えてもらいたいことに焦点を当てた学習活動の展開
14. 成果が出た点	3 時間構成の学習における最終時間において、水を取り巻く世界の諸問題の解決に向けたジブンゴトとしての行動目標をグループで考える学習展開を行った。この活動で、生徒の中には「もしも水が出なくなったら〇〇が困る」というような仮定を考える生徒も出てきて、水で困らないために「今の自分たちが何をすべきなのか、どんな行動に気を付けていかなければいけないのか」を考えることができたようだ。今回の学習活動ではこの変化や思考様式が成果だと捉えている。

15. 学びの軌跡 (児童生徒の反 応、感想文、作文、 ノートなど)

① 本時に取り組む前に事前学習を行い、水問題全体に関する知識の定着を試みた。

A 01	争いの絶えない時代	20世紀→(石油)	21世紀→(水)
A 02	太陽消滅 今から(50)億年後、気温(200)℃、(8)分(19)秒後に人が感知 未来は確実に水不足の世界が到来する (2030)年に世界人口の(2/3)が水で苦悩する		
Q01_01	水汲み作業 平均すると片道約(3)時間、主な担当は(女、子どものみ)の現実		
Q01_02	自宅から(30分)以内に水場(水源)のない人数 → (8)億(4400)万人 安全な水が飲めない人数 → (21)億人、(4)人に(1)人 水が原因で死亡する子どもの時間的計算 (20)秒に1人の割合		
Q02_01	水汲みした水で死ぬ原因 (水場まで遠くの水が汚れている) (清潔なトイレが十分にないから) 世界で考えると毎日(800)人の子供が死亡、主な原因は(下痢) (感染症) 人体の水分量 大人(60)% 赤ちゃん(75)%		
Q03_01	世界全体の飲料水を測ると... 約(99.5%)海水 約(2.5%)淡水		
Q03_02	地球上で人類が利用可能な飲料水の割合 (0.01)%		
Q04_01	飲料水で子どもの死亡率急増 → 人体に有害な(細菌)や(ウイルス)の混在 小さな(虫)に気付かないで飲料して、その後体内に(寄生)して、多臓器不全に陥る現状		
Q04_02	①伝統朝食→(納豆) ②苦みが旨み→(コーヒー豆の果実にある皮)		
Q05_01	食糧自給率 カロリーベース:()生産額ベース:()		
Q05_02	国内食料自給率 東京都・大阪府 (01)% 北海道・秋田県 (200)%		
Q05_03	水使用量 短髪(10)L、長髪(20)L、トイレ固形物(12)L、1日に必要(20~50)L		

Jueves, 15 Octubre 2020

高みかき、泡が、トイレのWater Problems that we should solve.

物 → (2)L

② JICA 教材の「世界の水問題」から各自で必要な情報を収集する作業

文章から「必要な情報」を読み取り、整理して、他者に伝える		
① 「文章を読んで、他者に伝えたいと感じた『文章(1行程度)』を10文』記述してください」		
No.	Page.	伝えたい文章、情報 (1行で収まるように工夫して記入すること)
1	2	人間が利用できる水が地球に0.01%しかないことを知らない人が多い。
2	3	1日に数千kmもの距離を往復し、学校に通えない人達がいる。
3	5	世界の9人に1人が安全に水を十分、かつ容易に使えていない。
4	5	世界で20秒に1人の割合で子どもが病気になり亡くなっている。
5	9	森林伐採や地球温暖化の影響で洪水の被害が増加。
6	9	輸入する量が足りないのは、その物を育てるために大量の水を使っているから。
7	1	SDGs が採択され、水の問題の解決に取り組んでいる。
8	3	水問題の解決は、開発途上国地域の貧困状況から脱出にも関係している。
9	9	地産地消の取り組み、リサイクル活動、省エネ活動をしよう。
10		水問題についての知識を1人1人広げる。

③ 自分と他者の意見を比較して、最も重要な情報を選び出す作業

《このあとの作業②》	
1.	分類された付箋をグループ内の話し合いで整理したり、優先順位を付けたりする
2.	25個の付箋→10個の付箋→5個の付箋→3個の付箋→2個の付箋→最終的に1個の付箋
No.	グループ内で最終的に残った優先順位の高い情報を付箋に書いてある通りに記述
3RD	地産地消の取り組み、リサイクル活動、省エネ活動をしよう。
2ND	人間が利用できる水が地球に0.01%しかないことを知らない人が多い。
1ST	安全な飲み水が手に入らない。
《このあとの作業③》	
1.	最終的に1個残った付箋の情報を選んだ「理由」と「具体的な解決方法」を話し合う
2.	話し合って結論に達した「理由」と「具体的な解決方法」を記入する
グループ内で最終的に残った優先順位の高い情報を付箋に書いてある通りに記述	
理由	安全な飲み水が手に入らないことで、多くの感染症やさまざまな病気にもなるし、おこなが健康に与える影響など、すべての水問題の根本的なものだから。
方法	・知識の広げと意識の向上が問題につながっているから、こうした授業などを通して知識、意識を高める。 ・地産地消の取り組みやリサイクル活動、省エネ活動を積極的に実行していくこと。

16. 授業者による 自由記述	この授業に取り組む前に気づいていれば、もう少し教材内容に反映できたかもしれないが、本校には諸事情で水不足や断水を経験した生徒も数名程度いたようだった。生徒同士の話し合いやグループワークにおいては、やはりその生徒から発する意見はとても現実味を帯びており、説得力のあるものであったように感じた。私自身も海外生活や震災の被災者であることから『不自由な生活』を体験しているにもかかわらず、この日本という恵まれた生活環境での生活が長くなると、「当たり前感覚」がその当時から様変わりしてきたように思う。あの当時の不自由さを今の世代に体験させないためにも、今ある恵まれた環境を今後の世代に引き継いでいくためにも、「ヒトゴトからジブンゴト」に感覚を変えていくための教材開発は必要なのではないかと感じている。 また、この研修を受ける前に感じていた「汎用性のある教材開発」も今後は喫緊の課題になることが必至であり、誰が展開しても同様の成果が得られるような教材やアイデアを今後も突き詰めて研究していきたいと改めて痛感している。
--------------------	--

参考資料：

1. JICA 教材 世界の水問題
2. JICA 教材 国際理解教育実践資料集
3. JICA 教材 「生きる力」を育む国際理解教育実践資料集
4. JICA 教材 共につくるわたしたちの未来 (6 安全な水とトイレを世界中に)
5. JICA 教材 世界につながる教室 (授業で使える映像教材・PDF 教材)等

201022Thu(06, GS)

2 - () - () Name [[]]

■ **自分の日常生活をふりかえる** **【SDGs Target 06 安全な水とトイレを世界中に】** ■

● **自分と他者の「当たり前・普通」をふりかえる**

- ① 「日常生活を振り返ってみて、**飲料水以外**の『**水の使い道**』を考えて記述してください」

自分	他者 (さん)

- ② 「ある日突然断水になったら、**1日の生活で困ること**を『**優先順位で**』考えて記述してください」

No.	自分	他者 (さん)
1 ST		
2 ND		
3 RD		
4 TH		
5 TH		

● **文章から「必要な情報」を読み取り、整理して、他者に伝える**

- ① 「文章を読んで、**他者に伝えたい**と感じた『**文章(1行程度)を10文**』記述してください」

No.	Page.	伝えたい文章、情報 (1行で収まるように工夫して記入すること)
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		

10		
----	--	--

● **文章**から「必要な情報」を読み取り、整理して、他者に伝える

- ② 「①で書いた 10 文に**優先順位**をつけて『**上位 5 文**』を付箋に記入して待機してください」

5 人グループで 25 個の重要課題→グループ内で最も優先度の高かった課題は…

《このあとの作業①》

1. グループメンバーの各自が書いた重要事項 25 個の付箋を模造紙に貼る
2. KJ 法で同じようなジャンルを分類して整理する(整理したらマジックで囲み、分類名を付す)

《このあとの作業②》

1. 分類された付箋をグループ内の話し合いで整理したり、優先順位を付けたりする
2. **25** 個の付箋→**10** 個の付箋→**5** 個の付箋→**3** 個の付箋→**2** 個の付箋→**最終的に 1 個の付箋**

No.	グループ内で最終的に残った優先順位の高い情報を付箋に書いてある通りに記述
3RD	
2ND	
1ST	

《このあとの作業③》

1. 最終的に 1 個残った付箋の情報を選んだ「理由」と「具体的な解決方法」を話し合う
2. 話し合ってから結論に達した「理由」と「具体的な解決方法」を記入する

	グループ内で最終的に残った優先順位の高い情報を付箋に書いてある通りに記述
理	
由	
方	
法	

《このあとの作業④》

1. 自分のグループの発表代表者を決定する → [] さん
2. 他のグループ情報を聞き取り、もっとも秀逸な発表を 1 つ書き取る(発表代表の生徒以外 4 名)

	発表順番 [] 番目	発表者氏名 [] さん
理		
由		
方		
法		

MEMOs